

平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月14日

上場会社名 I N E S T株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3390 URL https://inest-inc.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役会長兼社長 (氏名)上村 陽介  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)片野 良太 (TEL)03(6892)3864  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	1,303	△14.4	△91	—	△107	—	△17	—
29年3月期第2四半期	1,522	5.0	102	—	100	—	156	—

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 △20百万円(—%) 29年3月期第2四半期 153百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	△0.35	—
29年3月期第2四半期	3.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	1,943	1,054	53.9
29年3月期	1,496	730	47.8

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 1,048百万円 29年3月期 715百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	2,800	△2.9	△400	—	△405	—	△440	—	△9.06	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 除外1社 (社名)株式会社E P A R Kテイクアウト
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	30年3月期2Q	53,197,169株	29年3月期	48,591,907株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	66株	29年3月期	66株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	30年3月期2Q	50,428,912株	29年3月期2Q	48,591,841株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(追加情報)	10
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年9月30日)における我が国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策を背景とし、企業収益、雇用の改善がみられました。一方、為替の変動や英国の欧州連合離脱、米国の政治政策の動向等、海外経済の不確実性の高まりなどから、先行きについては不透明な状況が続いております。消費の基盤となる個人所得の水準については、小幅な改善に留まっており、景況感は足踏み状態となっております。

このような経済動向のなか、当社グループは、将来に向けたさらなる収益力向上を目指し、システム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客ニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,303百万円(前年同期比14.4%減)となり、営業損失91百万円(前年同期は営業利益102百万円)、経常損失107百万円(前年同期は経常利益100百万円)となりました。また、受取損害賠償金108百万円を特別利益に計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は17百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益156百万円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① システム事業

システム事業セグメントは、店舗運営を行う法人事業者を対象に、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売、予約サービスの展開など、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、引き続きシステム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客満足度を向上させるべく、総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。特に、予約システムなどのソリューションサービスの提供を行う体制を構築し、積極的に提案活動の展開を行い、収益力の向上を図ってまいりました。

また、前第1四半期連結累計期間において連結子会社であったアスカティースリー株式会社が連結の範囲から除外された影響もあり、当第2四半期連結累計期間の売上高は150百万円(前年同期比44.3%減)、セグメント損失は190百万円(前年同期はセグメント利益12百万円)となりました。

#### ② 直販事業

直販事業セグメントは、主にスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器・モバイルデータ通信端末の販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、市場環境の変化により通信事業者からの販売手数料は引き続き減少傾向にあります。このような状況から、事業規模に見合った人員配置、従業員一人当たりの生産性の向上、諸経費の削減等を進めることで経営資源の効率的な運用に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,152百万円(前年同期比8.3%減)、セグメント利益は150百万円(前年同期比3.2%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(単位：百万円)

	前連結会計年度末	当第2四半期連結会計期間末	増減
総資産	1,496	1,943	447
負債	766	889	123
純資産	730	1,054	323

総資産は、主に現金及び預金の増加により、前連結会計年度末に比べて447百万円増加し1,943百万円となりました。

負債は、主に前受金の増加により、前連結会計年度末に比べて123百万円増加し889百万円となりました。

純資産は、主に第三者割当による新株式の発行を行ったことにより、前連結会計年度末に比べて323百万円増加し1,054百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年度3月期の通期業績予想については、平成29年5月18日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	889	1,280
売掛金	451	246
商品	5	13
その他	38	206
貸倒引当金	△1	△33
流動資産合計	1,383	1,714
固定資産		
有形固定資産	24	32
無形固定資産		
のれん	6	2
ソフトウェア	0	0
その他	1	26
無形固定資産合計	9	28
投資その他の資産		
投資有価証券	24	33
その他	63	145
貸倒引当金	△8	△11
投資その他の資産合計	79	167
固定資産合計	112	229
資産合計	1,496	1,943

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	223	140
未払金	306	270
未払法人税等	4	44
前受金	145	309
賞与引当金	62	33
役員賞与引当金	4	0
その他	18	89
流動負債合計	766	889
負債合計	766	889
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	274
資本剰余金	757	932
利益剰余金	△142	△159
自己株式	△0	△0
株主資本合計	715	1,048
非支配株主持分	14	6
純資産合計	730	1,054
負債純資産合計	1,496	1,943

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1,522	1,303
売上原価	902	832
売上総利益	620	471
販売費及び一般管理費	517	562
営業利益又は営業損失(△)	102	△91
営業外収益		
その他	0	0
営業外収益合計	0	0
営業外費用		
支払利息	1	—
持分法による投資損失	0	13
その他	0	2
営業外費用合計	2	16
経常利益又は経常損失(△)	100	△107
特別利益		
子会社株式売却益	62	21
受取損害賠償金	—	108
特別利益合計	62	129
税金等調整前四半期純利益	162	22
法人税、住民税及び事業税	8	16
過年度法人税等	—	25
法人税等調整額	—	1
法人税等合計	8	42
四半期純利益又は四半期純損失(△)	153	△20
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	156	△17

四半期連結包括利益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	153	△20
四半期包括利益	153	△20
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	156	△17
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	△3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	162	22
減価償却費	5	4
のれん償却額	4	4
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	35
賞与引当金の増減額(△は減少)	△22	△29
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△1	△4
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	1	—
持分法による投資損益(△は益)	0	13
子会社株式売却損益(△は益)	△62	△21
売上債権の増減額(△は増加)	364	203
たな卸資産の増減額(△は増加)	△16	△7
仕入債務の増減額(△は減少)	△181	△82
未払金の増減額(△は減少)	△149	△27
前受金の増減額(△は減少)	22	164
その他	36	△161
小計	163	112
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△1	—
損害賠償金の受取額	—	60
法人税等の支払額	△45	△4
法人税等の還付額	5	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	121	173
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1	△12
無形固定資産の取得による支出	—	△24
投資有価証券の取得による支出	△12	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△111	△14
貸付けによる支出	—	△32
敷金及び保証金の差入による支出	—	△52
その他	0	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△126	△129
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
非支配株主からの払込みによる収入	20	—
長期借入金の返済による支出	△29	—
リース債務の返済による支出	△7	—
株式の発行による収入	—	347
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16	347
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△21	391
現金及び現金同等物の期首残高	755	889
現金及び現金同等物の四半期末残高	733	1,280

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

株主資本の著しい変動

当社は、平成29年7月20日付で、株式会社アルネッツ及び株式会社光通信から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が174百万円、資本準備金が174百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が274百万円、資本剰余金が932百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	270	1,252	1,522	—	1,522
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	5	5	△5	—
計	270	1,257	1,528	△5	1,522
セグメント利益	12	154	167	△65	102

(注) 1 セグメント利益の調整額△65百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△65百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間にアスカティースリー株式会社の株式の一部を譲渡したことにより同社が連結子会社でなくなったため、前連結会計年度の末日に比べ、第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、システム事業において、320百万円減少しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	150	1,152	1,303	—	1,303
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	150	1,152	1,303	△0	1,303
セグメント利益又は損失(△)	△190	150	△40	△51	△91

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△51百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△51百万円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

(当社元役員による不正な金銭の受領について)

平成29年11月8日に公表しました「内部調査委員会の調査報告書受領等に関するお知らせ」のとおり、平成24年5月より平成29年9月にわたり当社子会社から複数の取引先に支払った金銭の一部について当社元役員が不正に受領していたことが判明しました。当該不正による当社子会社からの資金流出額160百万円のうち取引先から返金を受けた2百万円を控除した158百万円を元役員に対する求償債権として未収入金に計上するとともに、平成29年9月に元役員から預託された現金60百万円及び担保として差し入れられた有価証券65百万円(当第2四半期連結会計期間末時点での時価相当額)の合計125百万円を控除した残額33百万円について貸倒引当金を計上しております。これに伴い、受取損害賠償金108百万円を特別利益に計上するとともに、過年度法人税等25百万円を計上しております。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。